

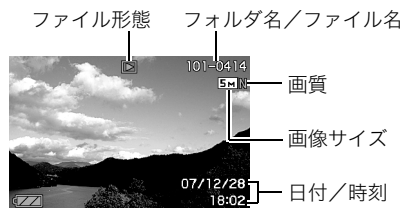
静止画や動画を再生する

静止画を見る

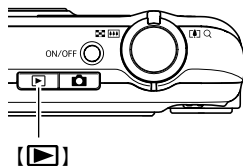
撮影した静止画を液晶モニターで見ることができます。

1. 【▶】を押して、再生モードにする

- 記録されている静止画の中の1つが液晶モニターに表示されます。
- 表示されている静止画についての情報も表示されます(183ページ)。



- ファイル形態:通常の静止画のときは「▶」



- 静止画以外のもの(動画や、音声だけの記録)があるときは、ファイル形態がそれに対応したアイコンに変わります。
 - ▶ :動画の再生→107ページ
 - ▶ :音声付き静止画の再生→107ページ
- 情報表示を消して、静止画だけを見ることもできます(40ページ)。

2. 【◀▶】で静止画を切り替える

【▶】を押すと次の静止画に、【◀】を押すと前の静止画に切り替わります。



参考

- 【◀▶】を押し続けると、早送りができます。
- 初めに表示される静止画は簡易画像のため粗く見えますが、すぐに精細な画像になります。ただし、他のデジタルカメラからコピーした画像はこの限りではありません。

撮影モードに切り替えるには

【📷】を押します。

音声付き静止画の音声を聞く

音声付き静止画(ファイル形態は“**[📷]**”)の音声を、内蔵スピーカーで聞くことができます。

1. 再生モードにして、**[◀▶]**で音声付き静止画を表示させる

ファイル形態のアイコンが“**[📷]**”になります。このアイコンで、音声付き静止画であることを確認してください。



2. **[SET]**を押す

音声がスピーカーから再生されます。

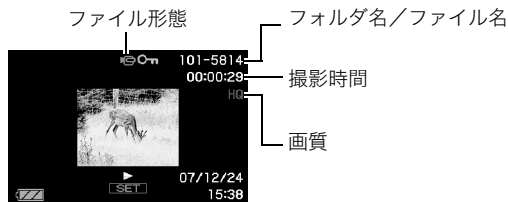
音声の再生中にできること

早送り/早戻しする	[◀▶] を押す
再生と一時停止を切り替える	[SET] を押す
音量を調節する	[▲][▼] を押す ● 音量調節は、再生または一時停止中にだけできます。
表示内容を切り替える	[DISP] を押す
再生をやめる	[MENU] を押す

動画を見る

撮影した動画を、液晶モニターで再生することができます。

1. 再生モードにして、**[◀▶]**で再生したい動画を表示させる
ファイル形態のアイコンが“**[📷]**”になります。このアイコンで、動画であることを確認してください(184ページ)。



映画のフィルムのようなふち取りが、動画であることを示しています。

2. **[SET]**を押して再生を始める

- 最後まで再生されると、手順1の画面に戻ります。

撮影モードに切り替えるには

[📷]を押します。

動画の再生中にできること

早送り／早戻しする	【◀】【▶】を押す • 押すごとに、早送り、早戻しのスピードが速くなります。
早送り／早戻しから通常の再生に戻す	【SET】を押す
再生と一時停止を切り替える	【SET】を押す
一時停止中にコマ送りする	【◀】【▶】を押す • 押し続けると、連続してコマ送りします。
音量を調節する	【▲】【▼】を押す • 音量調節は、再生中にだけできます。
情報表示をオン／オフする	【DISP】を押す
拡大する	ズームレバーを【Q】(Q)側にスライドさせる • 拡大中は、【▲】【▼】【◀】【▶】で拡大部分を移動できます。 • 動画は4.5倍まで拡大できます。
再生をやめる	【MENU】を押す




重要

- このカメラで撮影した動画以外は、再生できない場合があります。

手ブレを補正しながら動画を再生する

撮影時の手ブレを補正しながら動画を再生することができません。カメラとテレビをつないだときなどに、手ブレを補正した状態で観賞できるので便利です。

1. 再生モードにして【MENU】を押す
2. “再生機能”タブ→“ 手ブレ補正”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“入”を選び【SET】を押す
 - 手ブレ補正を“入”に設定すると、液晶モニターに表示される再生画面の表示範囲が若干狭まります。
4. 【SET】を押して再生を始める



自動的にページ送りして楽しむ (スライドショー)



撮影、記録したものを自動的に次々と再生させることができます(スライドショー)。

いろいろな見かたを設定することができます。

1. 再生モードにして【MENU】を押す
2. “再生機能”タブ→“スライドショー”と選び、【▶】を押す
3. スライドショーの見かたを設定する

【▲】【▼】で設定を変更したい項目を選び、下の表を参照して設定してください。

表示画像 (スライド ショーで再生 させるもの)	<ul style="list-style-type: none"> ● 全画像:メモリー内のすべての静止画、動画、および音声のみの記録 ●  のみ:静止画、音声付き静止画のみ ●  のみ:動画のみ ● 1枚画像:好きな画像ひとつのみ (【◀】【▶】で表示させる画像を選びます。) ● お気に入り:お気に入りフォルダ(135ページ)内の静止画
時間 (スライド ショー開始から 終了までの 時間)	1～5分、10分、15分、30分、60分のいずれかを【◀】【▶】で選びます。


間隔 (切り替わり の間隔)	<p>1～30秒、または“最速”を【◀】【▶】で選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> – 1～30秒を選んだときは、動画や音声付き静止画、音声のみの記録は、選んだ間隔にかかわらず最初から最後まで再生されます。 – “最速”を選ぶと、動画は最初の1コマだけ表示されます。音声のみの記録は再生されません。
エフェクト (特殊効果)	<p>【▲】【▼】で希望のエフェクトを選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● パターン1～5:特殊効果をまじえながら画像を切り替えて表示、BGMも再生 <ul style="list-style-type: none"> – “パターン1～4”の特殊効果は同じですが、BGMがそれぞれ異なります。“パターン5”は、“パターン1～4”の特殊効果と異なります。 – “パターン5”を選択すると“表示画像”は、“のみ”になります。また、“間隔”の設定は、無効になります。 ● 切:特殊効果とBGMの再生をしない ただし、下記の場合は、特殊効果が無効になります。 <ul style="list-style-type: none"> – “表示画像”を“のみ”、“1枚画像”、“お気に入り”にした場合 – “間隔”を“最速”、“1秒”または、“2秒”にした場合 – “動画”や“ボイスレコード”の再生の前後

4. スライドショーを開始する

【▲】【▼】で“開始”を選んで【SET】を押します。
設定した時間が経過するまでスライドショーが続きます。

- 再生中に【◀】【▶】を押すと画像を送ることができます。ただし、“エフェクト”を“パターン5”にしたときを除きます。
- 音量を調節するには、再生中に【▲】【▼】を押します。

スライドショーを中断するには

- 【SET】を押します。再生モードに戻ります。
- 【MENU】を押すと、中断してメニューに戻ります。
 - 【】を押すと、中断して撮影モードに切り替わります。

重要

- 画面の切り替わり中はボタン操作が効かなくなります。画面が静止しているときにボタン操作をしてください。ボタンが効かない場合は、しばらくボタンを押し続けてください。

参考

- “表示画像”を“1枚画像”にしたときに動画を選ぶと、動画は設定された時間内で繰り返し再生します。
- パソコンからコピーした画像や、他のデジタルカメラの画像では、切り替わる間隔が設定した間隔より長くなる場合があります。

■ 好みのBGMに切り替える

“エフェクト”を実行したときに再生される内蔵BGMを、好みのBGMに切り替えることができます。

- 設定可能なファイル：
IMA ADPCM形式のWAVファイル
サンプリング周波数：22.05kHz／44.1kHz
音質：モノラル
- 設定可能なファイル数：9ファイル
- ファイル名：SSBGM001.WAV～SSBGM009.WAV
 - パソコンには、上記の名称で保存してください。

重要

- どのエフェクトパターンを選んで、切り替えたBGMを連続再生します。
- BGMファイルのフォーマットによっては、BGMを再生できない場合があります。

好みのBGMをメモリーに入れる

好みのBGMファイルをメモリーカードまたは内蔵メモリーに入れると、BGMが切り替わります。

1. カメラとパソコンを接続する(159, 171ページ)

- メモリーカードにBGMファイルを入れたいときは、あらかじめカメラにメモリーカードを入れておいてください。

2. 次のように操作して、メモリーカードまたは内蔵メモリーを開く

- Windowsの場合
 - Windows XPの場合：“スタート”→“マイコンピュータ”の順でクリックする
Windows Vistaの場合：“スタート”→“コンピュータ”の順でクリックする
Windows 2000/Me/98SE/98の場合：“マイコンピュータ”をダブルクリックする
 - “リムーバブルディスク”をダブルクリックする
メモリーカードまたは内蔵メモリーを「リムーバブルディスク」として認識します。
- Macintoshの場合
 - “名称未設定”をダブルクリックする
メモリーカードまたは内蔵メモリーを「ドライブ」として認識します。

3. “SSBGM”フォルダを作成する

4. 作成した“SSBGM”フォルダをダブルクリックし、好みのBGMファイルをコピーする

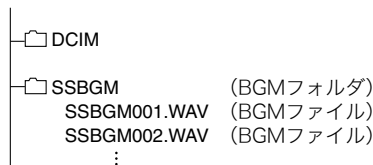
5. カメラをパソコンから取りはずす(163, 174ページ)

重要

- メモリーに入れたBGMファイルがファイル順に繰り返して再生されます。
- メモリーカードと内蔵メモリーの両方にBGMファイルを入れた場合は、メモリーカードに入れたBGMが再生されます。
- ファイルの移動、コピー、削除のしかたは、パソコンに付属の取扱説明書を参照してください。

● フォルダ構造例

メモリーカードまたは内蔵メモリー



■ USBクレードルを使ってスライドショーを楽しむ (フォトスタンド)

カメラをUSBクレードルにセットした状態でスライドショー再生をすることができます。電池の消耗を気にせずに長時間のスライドショーを楽しむことができます。

- あらかじめスライドショーの設定をしておいてください(109ページ)。
- USBクレードルは付属のACアダプターを使ってコンセントにつないでおいてください。

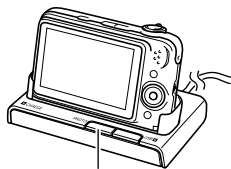
1. カメラの電源を切り、カメラをUSBクレードルにセットする

2. スライドショーを開始する

USBクレードルの【PHOTO】を押します。

設定した時間が経過するまでスライドショーが続きます。設定した時間が経過すると、自動的にカメラの電源が切れます。

- 再生中に【MENU】を押してスライドショーの設定を変更できます。設定変更後、もう一度【MENU】を押すとスライドショーが再開します。
- 音量を調節するには、再生中に【▼】を押し、液晶モニターの左に音量表示が表れたら【▲】【▼】を押します。



【PHOTO】

スライドショーを中断するには

USBクレードルの【PHOTO】を押します。カメラの電源が切れます。

★ 重要

- スライドショー中は電池は充電されません。電池の充電をする場合は、スライドショーを終了してください。
- スライドショー中にカメラをUSBクレードルから取りはずさないでください。データが破壊する可能性があります。

参考

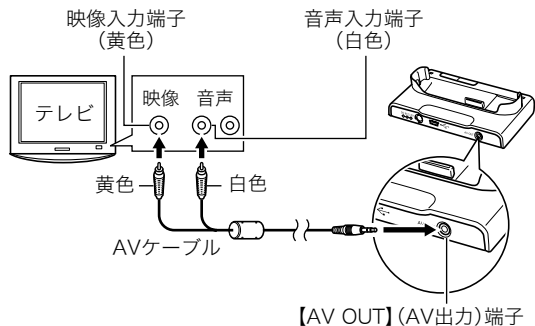
- テレビにつないでスライドショーを見ることができます。ビデオにつなげば、画像をビデオに録画することもできます(113ページ)。

テレビで画像を見る

カメラに記録してある静止画や動画を、テレビの画面で見ることができます。

USBクレードルと、付属のAVケーブルを使います。

1. USBクレードルとテレビをつなぐ



2. カメラの電源を切り、カメラをUSBクレードルにセットする

3. テレビの映像入力を“ビデオ入力”に切り替える

テレビに映像入力が2つ以上ある場合は、USBクレードルをつないだ映像入力を選んでください。

4. 【▶】(再生)を押してカメラの電源を入れる

【ON/OFF】や【📷】(撮影)を押しても再生モードで電源を入れることはできません。

カメラが再生モードになり、テレビの画面に画像が表示されます。(液晶モニターには何も表示されません。)

5. 以後、カメラで再生の操作を行う

- USBクレードルの【PHOTO】を押して、スライドショーを開始することもできます(112ページ)。


カメラの電源を切るには

カメラの【ON/OFF】ボタンまたはUSBクレードルの【USB】を押すと、カメラの電源が切れます。

★ 重要

- テレビに画像を映すとき、カメラの【📷】(撮影)／【▶】(再生)の動作を必ず“パワーオン”または“パワーオン/オフ”に設定しておいてください(145ページ)。
- 液晶モニターに表示されるアイコンなどは、そのままテレビ画面に表示されます。【DISP】で表示内容を切り替えることもできます。
- 音声はモノラルになります。
- お使いのテレビによっては、画像の一部が表示されないことがあります。
- 音声は最大で出力されます。はじめにテレビの音量を小さくしておき、テレビ側で音量を調節してください。

参考

- DVDレコーダーやビデオデッキとUSBクレードルを介して接続して、カメラの画像を録画することができます。録画するにはさまざまな接続方法がありますが、一例として、付属のAVケーブルを次のように接続します。
 - DVDレコーダーやビデオデッキ側：映像入力端子、音声入力端子
 - カメラ側：USBクレードルの【AV OUT】(AV出力)端子このとき、カメラでスライドショーを実行すれば、静止画や動画を記録した思い出のDVDやビデオテープが簡単に作れます。スライドショーの設定を“のみ”にすれば、動画だけの録画もできます(109ページ)。また、【DISP】を押して画面上の情報表示を消すことで、画像だけを録画することができます(40ページ)。
録画する画像の確認は、接続したDVDレコーダーやビデオデッキから出力される画像をテレビなどに表示させてご確認ください。DVDレコーダーやビデオデッキから出力される画像の見かたや録画方法については、DVDレコーダーやビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。

■ 画面の横縦比とビデオ出力の方式を変更する

本機では、ビデオ信号をNTSCまたはPAL、テレビ画面のアスペクト比(横縦比)を4:3または16:9のいずれかで出力できます。お買い上げいただいたときは、日本国内の仕様に合わせて、NTSC4:3で出力します。

海外でお使いの場合でPAL仕様のテレビにつなぐときは、ビデオ信号の出力をPALに切り替えてください。

1. 【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“ビデオ出力”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

NTSC4:3 : 日本のほか、アメリカなどでも使用されています。通常の画面比率のテレビ用です。

NTSC16:9 : 日本のほか、アメリカなどでも使用されています。ワイド画面のテレビ用です。

PAL4:3 : ヨーロッパなどで使用されています。通常の画面比率のテレビ用です。

PAL16:9 : ヨーロッパなどで使用されています。ワイド画面のテレビ用です。

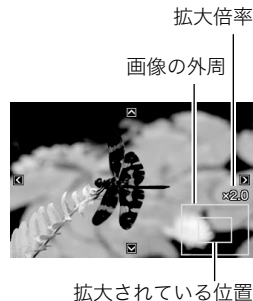
重要

- お使いのテレビ画面のアスペクト比(4:3または16:9)に合わせ、正しく設定してご利用ください。このとき、テレビ側のアスペクト比の設定も正しく設定されている必要があります。カメラとテレビ両方のアスペクト比の設定が揃っていないと、画面が正常に表示されない場合があります。
- 本機のビデオ方式とテレビのビデオ方式が合わないと正しく表示されません。
- NTSC、PAL以外の方式のテレビでは、画像は正しく表示されません。

画像を拡大して表示する

撮影した静止画を8倍まで拡大して見ることができます。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で拡大したい静止画を表示させる
2. ズームレバーを【Q】(Q)側にスライドさせて、画像を拡大表示させる
【▲】【▼】【◀】【▶】で、拡大表示される位置を変えることができます。
ズームレバーを【AAA】側にスライドさせると、縮小表示されます。
 - 情報表示をオンにしてあるとき、画像の右下に、拡大されている位置が表示されます。



元の表示に戻るには



【MENU】または【BS】を押します。

重要

- 画像のサイズによっては、8倍まで拡大できないことがあります。

画面に12枚の画像を表示する







撮影した内容を同時に12枚一覧表示できます。

1. 再生モードにしてズームレバーを【】(【】)側にスライドさせる

画面に12枚の画像が表示され、最後に見ていた画像が枠で囲まれて表示されます。





2. 表示を切り替える


- 【】【】を押ししていくと、前後の12枚を表示します。
- 通常表示(1枚表示)で見たいときは【】【】【】【】を押し、見たい画像に枠を合わせて【SET】を押します。

カレンダー形式で画像を表示する





1ヶ月分のカレンダーの日付上に、その日に撮影した最初の画像を表示させることができます。日付から画像をすばやく探すことができます。

1. 再生モードにしてズームレバーを【】(【】)側に2回スライドさせる

カレンダー表示になり、日付と、その日に撮影した最初の画像が表示されます。

- 【MENU】を押してから、“再生機能”タブ→“カレンダー表示”と選び、【】を押してもカレンダー表示になります。
- カレンダー表示をやめるには、【MENU】または【BS】を押します。



2. 【】【】【】【】で見たい画像のある日付に枠を合わせ、【SET】を押す

その日に撮影した最初の画像が表示されます。

参考

- カレンダー表示での年/月は、“表示スタイル”(143ページ)の設定によります。

重要

- 下記の機能を使用して保存した画像は、カレンダー表示の日付には正しく反映して表示することができません。
各機能で保存した時点の日付で表示される画像
 - アンゲル補正/退色補正/リサイズ/トリミング/
コピー/レイアウトプリント/モーションプリント撮影時の日付で表示される画像
 - 日時編集

撮影した画像を編集する

画像サイズを小さくする(リサイズ)

撮影した静止画のサイズを小さくして、新しい静止画として保存することができます。元の静止画も残ります。以下の3つのサイズに変えることができます。

画素数(pixels)			プリントサイズ
大きい ↑	5M*	2560×1920	A3プリント
	3M	2048×1536	A4プリント
↓ 小さい	VGA	640×480	Eメール • Eメールで画像を送りたい場合に最適です。

※Mはメガ(100万)の意味です。

1. 再生モードにして【MENU】を押す
2. “再生機能”タブ→“リサイズ”と選び、【▶】を押す
3. 【◀】【▶】でリサイズしたい静止画を表示させる
4. 【▲】【▼】で変更後のサイズを選び、【SET】を押す
 - 画像サイズの選択中は、画素数(pixel数)とプリントサイズが自動的に切り替わって表示されます。プリントサイズは、選んだ画素数に対して、プリント時に最適な用紙のサイズを示しています。

5. 続けて別の静止画をリサイズする場合は手順3、手順4を繰り返す
 - リサイズをやめるには“キャンセル”を選んで【SET】を押してください。



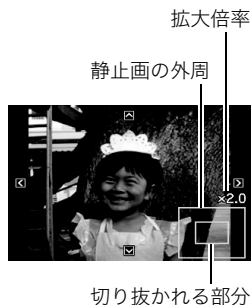
重要

- サイズがVGA(640×480 pixels)の画像はリサイズできません。
- 16:9、および3:2の画像をリサイズすると、画像の両脇が削られ、画像の横縦比が4:3になります。
- リサイズした静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。

静止画の一部を切り抜く(トリミング)

撮影した静止画の一部を切り抜いて、新しい静止画として保存することができます。元の静止画も残ります。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】でトリミングしたい静止画を表示させる
2. 【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ→“トリミング”と選び、【▶】を押す
 - 静止画が表示されているときのみ操作できます。



4. ズームレバーで静止画を拡大/縮小したり、【▲】【▼】【◀】【▶】で表示位置を変えて、切り抜く部分を決める

5. 【SET】を押す

- トリミングをやめるには、【SET】を押す前に【MENU】を押します。

重要

- 3:2、16:9の画像をトリミングすると、画像の横縦比が4:3になります。
- トリミング後の静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。

黒板やポスターを正面から見たように補正する(アングル補正)

すでに撮影した黒板、書類、ポスターや写真などの静止画を、正面から撮影したように(長方形・正方形に)ゆがみを補正します。アングル補正した画像は、アングル補正する前の画像とは別に、最新ファイルとして2M(1600×1200 pixels)のサイズで保存されます。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で補正したい静止画を表示させる
2. 【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ→“アングル補正”と選び、【▶】を押す
補正確認画面が表示されます。
 - 静止画が液晶モニターに表示されているときのみ操作することができます。
4. 【◀】【▶】で補正候補を選ぶ



5. 【▲】【▼】で“補正”を選び、【SET】を押す

- 補正を中止する場合は“キャンセル”を選びます。

重要

- 元の画像サイズが2M(1600×1200 pixels)より小さい場合は、元の画像と同じサイズで保存されます。
- アングル補正した画像をカメラで表示した場合、日付はアングル補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されません。

古く色あせた写真を補正する(退色補正)

デジタルカメラで撮影した古く色あせた写真を、後から退色の補正をすることができます。すでに撮影した古い写真やポスターなどを補正するのに便利です。

- 退色補正した画像は、退色補正する前の画像とは別に、最新ファイルとして2M(1600×1200 pixels)のサイズで保存されます。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で補正したい静止画を表示させる
2. 【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ→“退色補正”と選び、【▶】を押す
4. 【◀】【▶】で写真の輪郭候補を選ぶ
5. 【▲】【▼】で“決定”を選び、【SET】を押す
画像の一部を切り抜く操作(トリミング)により、液晶モニターに画像を切り抜くための枠が表示されます。
 - “キャンセル”を選ぶと、補正せず、何も保存されずに終了します。
6. ズームレバーをスライドさせて枠を拡大/縮小し、補正する画像の大きさを決める

7. 【▲】【▼】【◀】【▶】で切り抜きたい部分に枠を移動して補正する画像の位置を決め、【SET】を押す

あせた色を自動的に補正し、画像を保存します。

- 画像の周囲に余白を付けたくない場合は、撮影した写真よりも補正画像を小さく指定してください。
- 【MENU】を押すと、何も保存されずに退色補正が終了します。

重要

- 元の画像サイズが2M(1600×1200 pixels)より小さい場合は、元の画像と同じサイズで保存されます。
- 退色補正した画像をカメラで表示した場合、日付は退色補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

参考

- 退色補正を撮影から補正まで一貫して行いたい場合は、「古く色あせた写真を蘇らせる(よみがえりショット)」(81ページ)をご覧ください。

撮影画像の日時情報を修正する

すでに撮影した画像の日時情報(撮影日/撮影時刻)をカメラで修正することができます。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で日時を修正したい静止画を表示させる
2. 【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ→“日時編集”と選び、【▶】を押す
4. 日付と時刻を修正する
 - 【▲】【▼】：カーソル(選択枠)の部分の数字を変えます。
 - 【◀】【▶】：カーソル(選択枠)を移動します。
 - 【BS】：12時間表示と24時間表示の切り替えができます。
5. 【SET】を押して、修正を終了する
 - 修正後は、画面を表示して、日時が正しく修正されたかどうかを確認してください。

重要

- タイムスタンプ機能により写し込んだ日付と時刻は修正できません(100ページ)。
- メモリープロテクトのかかったファイルは、日時を修正できません。メモリープロテクトを解除してから、日時を修正してください。
- 入力できる日付は、1980年1月1日～2049年12月31日となります。

画像を回転させる

撮影した静止画を回転して表示させることができます。カメラを縦に構えて撮影した画像を見るときなどに便利です。さらに回転させて元の状態に戻すことができます。

- 画像データそのものが回転するわけではありません。液晶モニターでの表示のしかたを変えているだけです。

1. 再生モードにして【MENU】を押す
2. “再生機能”タブ→“回転表示”と選び、【▶】を押す
 - 静止画が表示されているときのみ操作できます。
3. 【◀】【▶】で回転させたい画像を表示させる
4. 【▲】【▼】で“回転”を選び、【SET】を押す
【SET】を押すごとに、90°左回りに回転します。
5. 希望の表示状態になったら【MENU】を押す

重要

- メモリープロテクトをかけた画像を回転させることはできません。回転させたいときは、メモリープロテクトを解除してください(134ページ)。
- 拡大表示された画像を回転させることはできません。
- 12画面表示、カレンダー表示では、回転前の静止画が表示されます。

複数の写真を組み合わせる (レイアウトプリント)

あらかじめ用意された複数のフレームに、撮影済みの静止画をレイアウトし、新たに保存することができます。

- レイアウトパターン(2枚)
- レイアウトパターン(3枚)



1. 再生モードにして【◀】【▶】で最初にレイアウトする画像を表示させる
2. 【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ→“レイアウトプリント”と選び、【▶】を押す

- 静止画が表示されているときのみ操作できます。



4. [◀][▶]で好きなレイアウトパターンを選び、【SET】を押す



5. [◀][▶]で背景の色を選ぶ

6. 【SET】を押す



7. [◀][▶]でレイアウトする画像を選び、【SET】を押す

8. 残りのフレームについても、同様に手順6.7を繰り返す
最後の画像をレイアウトし終わると、レイアウトした画像が保存されます。

- 【MENU】を押すとレイアウトした画像は保存されず、再生モードの画面に戻ります。
- レイアウト上のすべての写真をはめ込まないと、写真は保存されません。

重要

- 画像サイズが“3:2(4000×2656 pixels)”、“16:9(4000×2240 pixels)”の場合、レイアウトできません。
- レイアウトした画像をカメラで表示した場合、日付はレイアウトした日付ではなく、レイアウトした最後のフレームを撮影した日付が表示されます。
- 画像サイズは自動的に5M(2560×1920 pixels)に固定され、保存されます。

画像の色味を変える(ホワイトバランス)

撮影した静止画像の色味を、さまざまな光源下で撮影したような色味に変えることができます。

1. 再生モードにして【◀】【▶】で色味を変えたい画像を表示させる

2. 【MENU】を押す

3. “再生機能”タブ→“ホワイトバランス”と選び、【▶】を押す

- 静止画が液晶モニターに表示されているときのみ操作することができます。

4. 【▲】【▼】で変更したい色味を選び、【SET】を押す

- ☀ 太陽光 : 晴天時の野外で撮影したような色味
- ☁ 曇天 : 薄雲～雨天の野外や木陰などで撮影したような色味
- ☁ 日陰 : ビルの陰など極端に色温度が高いところで撮影したような色味
- ☀ N 昼白色 : 白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えて撮影したような色味
- ☀ D 昼光色 : 昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えて撮影したような色味
- ⚡ 電球 : 電球の雰囲気を通して撮影したような色味
- キャンセル : 色味の変更を中止

- 設定項目を示す反転は、色味を変える前の画像撮影時に設定したホワイトバランスの位置に表示されます。ただし、ホワイトバランスを“オート”または“マニュアル”に設定して撮影した場合は、キャンセルの位置に表示されます(95ページ)。
- 撮影時のホワイトバランスを忘れて、撮影時と同じホワイトバランス(色味)を選んで【SET】を押したとしても、キャンセルと同じ扱いになり、色味は変わりません。

重要

- 色味を変えた画像は、色味を変える前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- 色味を変えた画像をカメラで表示した場合、日付は色味を変えた日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

画像の明るさを変える(明るさ編集)

撮影した静止画像の明るさを変えることができます。

1. 再生モードにして【◀】【▶】で明るさを変えたい画像を表示させる
2. 【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ→“明るさ編集”と選び、【▶】を押す
 - 静止画が液晶モニターに表示されているときのみ操作することができます。
4. 【▲】【▼】で明るさの設定値を選び、【SET】を押す
+2(もっとも明るい)から-2(もっとも暗い)までの5段階から選べます。
 - 明るさ編集を中止したいときは、【◀】または【MENU】を押してください。

重要

- 明るさを変えた画像は、明るさを変える前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- 明るさを変えた画像をカメラで表示した場合、日付は明るさを変えた日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

黒つぶれを軽減する(ダイナミックレンジ)

画像の明るい部分はそのまま、黒つぶれを軽減します。




1. 再生モードにして【◀】【▶】で階調を補正したい画像を表示させる
2. 【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ→“ダイナミックレンジ”と選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
拡大+2：“拡大+1”よりも強い効果があります。
拡大+1：黒つぶれを軽減します。

重要

- 階調を補正した画像は、階調を補正する前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- 階調を補正した画像をカメラで表示した場合、日付は階調を補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

動画をカットする(ムービーカット)

撮影した動画の一部をカット(削除)することができます。以下の3通りのカット方法があります。

 カット (前カット)	選択した場面から前をカットします。
 カット (中カット)	選択した場面と場面の間をカットします。
 カット (後カット)	選択した場面から後をカットします。

重要

- カット編集すると、元の動画は残りません。一度カットすると、カットした場面を元に戻すことはできません。
- 5秒未満の短い動画は、カットできません。
- このカメラで撮影した動画以外は、ムービーカットできません。
- カット編集しようとしている動画ファイルよりも残りのメモリー容量が少ない場合は、ムービーカットできません。その場合は、不要なファイルを消去するなどして、残りのメモリー容量を増やしてください。
- 動画を二つに分けたり、二つの動画を一つにすることはできません。

1. カットしたい動画を再生する

2. 【SET】を押して一時停止する

- “▽” (カットアイコン) が表示されていることを確認してください。表示されていない場合は、もう一度【SET】を押してください。



カットアイコン

3. 【▼】を押す

- 以下のように操作しても同じ画面が表示されます。
 - ①再生モードでカットしたい動画を選び、【MENU】を押す
 - ②“再生機能”タブ→“ムービーカット”と選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】でカット方法を選び、【SET】を押す

- カットを中止するときは、“キャンセル”を選んで【SET】を押します。一時停止状態に戻ります。

5. 以下の操作で、カットしたい位置(境界のコマ)を探す



カットされる範囲
(赤い部分)

早戻し/早送りする	【◀】【▶】を押す
再生と一時停止を切り替える	【SET】を押す
一時停止中にコマ送りする	【◀】【▶】を押す

- カットを中止するときは、【MENU】を押します。手順3の画面に戻ります。

6. カットしたい位置が決まったら、【▼】を押す



カット (前カット)	カットしたい最後の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す
カット (後カット)	カットしたい先頭の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す
カット (中カット)	① カットしたい先頭の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す ② カットしたい最後の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す

7. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

- カットを中止するときは、“いいえ”を選んで【SET】を押します。一時停止状態に戻ります。
- カットには、しばらく時間がかかります。“処理中ですしばらくお待ちください”の表示が消えるまで待ってください。編集する動画が長いときは非常に時間がかかることがあります。

動画から静止画を作成する (モーションプリント)

撮影した動画から印刷用の静止画を作ることができます。以下の2種類から選べます。

9コマで作成	選んだ場面を最も大きくレイアウトした9コマを1枚の静止画にして記録します。 
1コマで作成	選んだ1コマを静止画にして記録します。 

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で素材にする動画を表示させる
2. 【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ→“モーションプリント”と選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で“9コマで作成”または“1コマで作成”を選ぶ
5. 【◀】【▶】で静止画にしたい場面を探す
 - 【◀】【▶】を押し続けると、早戻し／早送りができます。
6. 【SET】を押す
 - “9コマで作成”を選んだときは、手順6の場面が最も大きくレイアウトされた9コマが静止画になります。
 - “1コマで作成”を選んだときは、手順6の場面が静止画になります。

重要

- このカメラで撮影した動画以外は、モーションプリントできません。

音声を活用する

静止画に音声を追加する(アフレコ)

音声を付けずに撮影した静止画に、あとから音声を付けることができます(アフレコ)。あとから音声を付けた場合も、その静止画は音声付きの静止画(“**AF**”)が表示される静止画)になります。音声付きの静止画の音声を録音し直すこともできます。音声は、ひとつの静止画につき最長約30秒まで録音できます。

1. 再生モードにして、**[◀][▶]**で音声を追加したい静止画を表示させる
2. **[MENU]**を押す
3. “再生機能”タブ→“アフレコ”と選び、**[▶]**を押す
 - 静止画が表示されているときのみ操作することができます。
4. シャッターを押して録音を開始する
5. もう一度シャッターを押して録音を終了する
シャッターを押さなくても、約30秒経過すると録音は終了します。



追加した音声を聞くには

音声付き静止画の音声を聞くときと同じように操作します(107ページ)。

■ 音声を録音し直す

★ 重要

- 音声を消去、変更すると、音声を元に戻すことはできません。


1. 再生モードにして、**[◀][▶]**で音声を確認したい静止画を表示させる
2. **[MENU]**を押す
3. “再生機能”タブ→“アフレコ”と選び、**[▶]**を押す
4. **[▲][▼]**で“消去”を選び、**[SET]**を押す
 - 音声を消すだけにしたいときは、続けて**[MENU]**を押してください。
5. シャッターを押して録音を開始する
前の録音は消え、新しい音声録音されます。
6. もう一度シャッターを押して録音を終了する
シャッターを押さなくても、約30秒経過すると録音は終了します。


参考

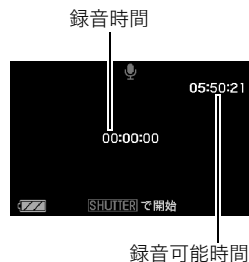
- 音声のデータ形式などは以下のとおりです。
 - 録音形式:WAVE/ADPCM記録形式(拡張子は.WAV)
 - 音声ファイルサイズ:約165KB(約5.5KB/秒で30秒間録音時)
- 録音時の注意事項については58ページをご覧ください。
- 下記の画像に、音声を追加することはできません。
 - モーションプリント機能により作成した画像
 - メモリープロテクトをかけた画像

音声だけを録音する(ボイスレコード)

静止画や動画は撮影せず、音声だけを録音することができます。内蔵メモリーを使った場合、最長約35分録音できます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“撮影モード”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“ ボイスレコード”を選び、【SET】を押す

液晶モニターに“”が表示されます。




4. シャッターを押して録音を開始する
 - 録音中は、動作確認用ランプが緑色に点滅します。
 - 録音中に【SET】を押すと、その部分にマークが付きます。再生するとき、マークの位置に簡単に移動できます。

5. もう一度シャッターを押して録音を終了する

- シャッターを押さなくても、メモリーがいっぱいになると録音は終了します。

6. 続けて次の録音をする場合は手順4、手順5を繰り返す


- ボイスレコードをやめるには、【MENU】を押し、“撮影モード”から“ ボイスレコード”以外の設定を選んで【SET】を押してください。

参考

- ボイスレコードで録音した音声は、パソコンで再生することもできます (WindowsではWindows Media Player、MacintoshではQuickTimeを使用します)。
- 音声のデータ形式などは以下のとおりです。
 - 録音形式: WAVE/ADPCM記録形式 (拡張子はWAV)
 - 音声ファイルサイズ: 約165KB (約5.5KB/秒で30秒間録音時)
- 録音時の注意事項については58ページをご覧ください。

■ ボイスレコードの音声を聞く

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で再生したいボイスレコードの画面を表示させる

ボイスレコードの画面には、“”が表示されます。

2. 【SET】を押して再生を始める



音声の再生中にできること

早送り/早戻しする	【◀】【▶】を押し続ける
再生と一時停止を切り替える	【SET】を押す
マークの位置から再生する	一時停止中に【◀】【▶】を押し、希望のマークの位置で【SET】を押す
音量を調節する	【▲】【▼】を押す • 音量調節は、再生または一時停止中にだけできます。
液晶モニターの表示のオン/オフを切り替える	【DISP】を押す
再生をやめる	【MENU】を押す

撮ったものを整理する

ファイルとフォルダについて

本機では、撮影した静止画などのひとつひとつが、個別のデータとして記録されます。個別のデータのことを「ファイル」と呼びます。撮影したものをファイルとして扱うことにより、ファイル単位で消去したり、誤消去防止の設定をしたり、コピーしたり、といった操作が可能になります。

各ファイルは、本機が自動的に作成する「フォルダ」と呼ばれるまとまりにグループ分けされます。

ファイル、フォルダには、区別のための名前が付けられます。ファイル名、フォルダ名とも、本機が自動的に付けます。

- フォルダの構造に関して詳しくは、「メモリー内のフォルダ構造」(177ページ)をご覧ください。

	名前と最大作成数	例
ファイル	“CIMG0001”から“CIMG9999”までで、最大9999個のファイルが1つのフォルダに作成されます。拡張子は記録したファイルの形式によって異なります。 <ul style="list-style-type: none">• ひとつのフォルダに9999個のファイルが入っているときに次の撮影をすると、自動的に新しいフォルダができます。	26番目に記録したファイル名: CIMG0026.JPG 連番(4桁) 拡張子
フォルダ	“100CASIO※”から“999CASIO※”までです。 <ul style="list-style-type: none">• 最大900のフォルダが作成されます。 ※本機のベストショットモード(73ページ)にはオークションサイトへの出品物を撮影する“オークション”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した場合、フォルダ名は「100_AUCT」となります。	連番100のフォルダ名: 100CASIO※ 連番(3桁)

参考

- フォルダ名、ファイル名は、パソコンで見ることができます。カメラの液晶モニターでの表示については、183ページをご覧ください。
- 保存できるフォルダ数、ファイル数は、サイズや画質、メモリーカードの容量によって異なります。


ファイルを消去できないようにする

大事なファイルを誤って消してしまうことのないよう、ファイルごとに、またはすべてのファイルに、消去防止(メモリープロテクト)を設定することができます。

重要

- メモリープロテクトをかけたファイルでも、フォーマット操作(12、34、146ページ)を行うと、消去されてしまいます。

■ ファイルごとにメモリープロテクトをかける

- 再生モードにして【MENU】を押す
- “再生機能”タブ→“プロテクト”と選び、【▶】を押す
- 【◀】【▶】でメモリープロテクトをかけたいファイルを表示させる
- 【▲】【▼】で“オン”を選び、【SET】を押す
メモリープロテクトがかかり、“”が表示されます。



- 続けて別のファイルにメモリープロテクトをかける場合は手順3、手順4を繰り返す

- メモリープロテクトの設定をやめるには、【MENU】を押してください。

メモリープロテクトを解除するには

手順4で“オフ”を選んで【SET】を押します。

■ 全ファイルにメモリープロテクトをかける

- 再生モードにして【MENU】を押す
- “再生機能”タブ→“プロテクト”と選び、【▶】を押す
- 【▲】【▼】で“全ファイル オン”を選び、【SET】を押す
これで、すべてのファイルにメモリープロテクトがかかります。
- 【MENU】を押す

すべてのファイルのメモリープロテクトを解除するには

手順3で“全ファイル オフ”を選んで【SET】を押します。

お気に入りフォルダを使う

お気に入りフォルダとは内蔵メモリーの中に用意されているフォルダで、通常の再生ではその中身を見ることはできません。思い出の風景や家族の写真、またはプライベートな写真などを入れておくと、メモリーカードを変えても、またはメモリーカードを入れていなくても見るすることができます。好きな静止画をいつも持ち歩きたいときなどにお使いください。

重要

- お気に入りフォルダに登録できるのは、静止画だけです。音声付き静止画の場合は、静止画だけがお気に入りフォルダに登録されます。

■ お気に入りフォルダにファイルを登録(コピー)する

- 再生モードにして【MENU】を押す
- “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を押す
- 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押す
- 【◀】【▶】でお気に入りフォルダに登録したい静止画を表示させる
- 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押す
静止画がお気に入りフォルダに登録されます。

6. 続けて別のファイルをお気に入りフォルダに登録する場合は手順4、手順5を繰り返す

- 登録をやめるには、【MENU】を2回押してください。

重要

- お気に入りフォルダに静止画を登録すると、QVGA(320×240 pixels)のサイズに変更されます。お気に入りフォルダの静止画のサイズを元に戻すことはできません。
- お気に入りフォルダに登録したファイルをメモリーカードにコピーすることはできません。

参考

- 登録できるファイル数は、画質、内蔵メモリーの空き容量により異なります。

■ お気に入りフォルダの静止画を見る

- 再生モードにして【MENU】を押す
- “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を押す
- 【▲】【▼】で“表示”を選び、【SET】を押す

4. 【◀】【▶】でお気に入りフォルダの静止画を切り替える



お気に入りフォルダアイコン

5. 【MENU】を2回押す

お気に入りフォルダの表示が終了します。

お気に入りフォルダの内容をパソコンで表示するときは

1. カメラからメモリーカードを取り出す
2. カメラをUSBクレードルにセットする
3. カメラをパソコンから操作する

パソコン上では、お気に入りフォルダは“FAVORITE”フォルダとして表示されます。

ファイルをコピーする

内蔵メモリーからメモリーカードへ、またはメモリーカードから内蔵メモリーへ、ファイルをコピーすることができます。たとえば、自分のメモリーカードを使って撮影した画像を他の人のメモリーカードにコピーしてあげるときは、次のような手順になります。

- ① 自分のメモリーカードから内蔵メモリーにコピーする
- ② 自分のメモリーカードを抜いて、他の人のメモリーカードをセットする
- ③ 内蔵メモリーから、そのメモリーカードにコピーする

重要

- コピーできるのは、カメラで撮影した静止画、動画、音声付き静止画、ボイスレコードファイルだけです。
- お気に入りフォルダからのコピーはできません。
- コピーしたファイルをカレンダー表示した場合、ファイルはコピーした日付上に表示されます(116ページ)。

■ 内蔵メモリーからメモリーカードにコピーする

内蔵メモリーからメモリーカードにコピーする場合は、すべてのファイルがコピーされます。1ファイルずつ指定してコピーすることはできません。

1. ファイルをコピーしたいメモリーカードを本機に入れる
2. 電源を入れ、再生モードにして【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ→“コピー”と選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で“内蔵→カード”を選び、【SET】を押す
コピーが始まります。“処理中です しばらくお待ちください”の表示が消えたらコピー終了です。
 - コピーが終了すると、内蔵メモリーからコピーした最後のファイルが表示されます。

■ メモリーカードから内蔵メモリーにコピーする

メモリーカード内のファイルをひとつひとつ内蔵メモリーにコピーできます。

1. コピーしたいファイルが入ったメモリーカードを本機に入れる
2. 電源を入れ、再生モードにして【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ→“コピー”と選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で“カード→内蔵”を選び、【SET】を押す
5. 【◀】【▶】でコピーしたいファイルを選ぶ
6. 【▲】【▼】で“コピー”を選び、【SET】を押す
コピーが始まります。“処理中です しばらくお待ちください”の表示が消えたらコピー終了です。
 - コピーが終了すると、コピーを始める前に表示されていたファイルに戻ります。
7. 続けて別のファイルをコピーする場合は手順5、手順6を繰り返す
 - コピーをやめるには、【MENU】を押してください。

参考

- ファイルは、内蔵メモリーの一番大きい番号のフォルダにコピーされます。

消去する

プリントしたり、パソコンにコピーした画像のファイルは、メモリーから消去して、次の撮影のための容量を確保することができます。

ファイルの消去には、1つずつ消去する方法とすべてのファイルを1回の操作で消去する方法があります。

ここでは、併せてお気に入りフォルダ内のファイルの消去のしかたも説明します。

重要

- 消去したファイルは元に戻せません。消去する前に、本当に不要かどうかよく確認してください。
- メモリープロテクトのかかったファイルは消去できません。消去するときは、メモリープロテクトを解除してください(134ページ)。
- 音声付きの静止画を消去すると、静止画といっしょに音声ファイルも消去されます。

1 ファイルずつ消去する

1. 再生モードにして【▼】
 (⚡🗑️)を押す



2. 【◀】【▶】で消去したいファイルを表示させる
3. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す
 - 消去を中止したいときは、“キャンセル”を選んでください。
4. 続けて別のファイルを消去する場合は手順2、手順3を繰り返す
 - 消去をやめるには、【MENU】を押してください。

すべてのファイルを消去する

1. 再生モードにして【▼】(🔌🗑️)を押す
2. 【▲】【▼】で“全ファイル消去”を選び、【SET】を押す
3. 【▲】【▼】で“はい”を選ぶ
 - 消去を中止するときは、“いいえ”を選んでください。
4. 【SET】を押す
 - すべてのファイルが消去され、“ファイルがありません”と表示されます。

お気に入りフォルダのファイルを消去する

お気に入りフォルダ内のファイルも、1ファイルずつ、または一括して消去できます。

1. 再生モードにして【MENU】を押す
2. “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“表示”を選び、【SET】を押す
4. 【▼】(🔌🗑️)を押す
5. 通常の消去方法と同様に操作して、ファイルを1ファイルずつ、または一括して消去する
 - 消去をやめるには、【MENU】を2回押してください。

その他の設定について

カメラの音を設定する


カメラの音について、次の設定ができます。

- シャッター音や操作したときの音の種類/音量
- 動画やボイスレコードの再生音の音量

■ 操作音の種類を選ぶ

1. 【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“操作音”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定したい音を選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
サウンド1～5：内蔵されたサンプル音が鳴ります。
切：音は鳴りません。

■ 操作音量を設定する

1. 【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“操作音”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“ 操作音”を選ぶ

4. 【◀】【▶】で再生したい音量を選び、【SET】を押す


- 音量は“0”（最小）～“7”（最大）の8段階の間で設定できます。
- 音量を“0”に設定すると、音は鳴りません。

参考

- 操作音の設定はビデオ出力時（113ページ）の音量にも反映されます。

■ 再生音量を設定する

操作音とは別に、動画や音声付き静止画の音量を設定することができます。

1. 【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“操作音”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“ 再生音”を選ぶ
4. 【◀】【▶】で再生したい音量を選び、【SET】を押す

- 音量は“0”（最小）～“7”（最大）の8段階の間で設定できます。
- 音量を“0”に設定すると、音は鳴りません。



重要

- 再生音の設定はビデオ出力時（113ページ）音量に反映されません。

起動画面のオン/オフを切り替える

カメラが記録している画像を、起動画面として液晶モニターに表示させることができます。

- 再生モードで起動画面の設定を行っても、**[▶]**(再生)を押して電源を入れた場合は、起動画面は表示されません。

- [MENU]**を押す
- “設定”タブ→“起動画面”と選び、**[▶]**を押す
- [◀][▶]**で起動画面にしたい画像を表示させる
- [▲][▼]**で設定内容を選び、**[SET]**を押す
入：選んだ画像を起動画面として表示します。
切：起動画面は表示しません。

参考

- 起動画面に設定できる画像は以下の通りです。
 - カメラに内蔵されている起動画面用の専用画像
 - 静止画
 - 音声付き静止画(音声は再生されません)
- 起動画面は、1つだけ登録できます。起動画面を変更すると、メモリー内の画像は上書きされます。
- 登録した起動画面は、内蔵メモリーをフォーマット(146ページ)すると消去されます。

画像の連番のカウント方法を切り替える

撮影時に画像に付く連番(133ページ)のカウント方法を切り替えることができます。

- [MENU]**を押す
- “設定”タブ→“ファイルNo.”と選び、**[▶]**を押す
- [▲][▼]**で設定内容を選び、**[SET]**を押す

メモリする：今まで撮影したファイルの連番を記憶します。ファイルを消去したり、何も記録されていないメモリーカードに交換しても、記憶した連番からファイル名を付けます。

- メモリーカードにファイルが残っている場合で、残っているファイルのファイル名がカメラの記憶した連番より大きい場合は、残っているファイルの最大の連番+1からファイル名が付きます。

メモリしない：ファイルをすべて消去したり、何も記録されていないメモリーカードに交換すると、ファイルの連番を継続せずに、0001番からファイル名を付けます。

- メモリーカードにファイルが残っている場合は、残っているファイルの最大の連番+1からファイル名を付けます。

カメラの日時を設定し直す

日時を設定し直したいときは、ホームタイムの都市(カメラを使用する都市)を設定してから日時を設定します。日時だけを設定し直したいときは、「ホームタイムの日時を設定し直す」の操作だけで日時を設定することができます。

重要

- 日時を設定する前にホームタイムを自分の住んでいる地域に設定しないと、ワールドタイム(143ページ)の日時が正しく表示されません。

■ ホームタイムの都市を設定し直す

1. **[MENU]**を押す
2. “設定”タブ→“ワールドタイム”と選び、**[▶]**を押す
現在設定されている内容が表示されます。
3. **[▲][▼]**で“自宅”を選び、**[▶]**を押す
4. **[▲][▼]**で“都市”を選び、**[▶]**を押す
5. **[▲][▼][◀][▶]**で自宅の地域を選び、**[SET]**を押す
6. **[▲][▼]**で自宅の都市を選び、**[SET]**を押す
 - 日本で使う場合は“Tokyo”を選んでください。
7. **[SET]**を押して、設定を終了する

■ ホームタイムの日時を設定し直す

1. **[MENU]**を押す
2. “設定”タブ→“日時設定”と選び、**[▶]**を押す
3. 日付と時刻を合わせる
 - [▲][▼]**:カーソル(選択棒)の部分の数字を変えます。
 - [◀][▶]**:カーソル(選択棒)を移動します。
 - [BS]** :12時間表示と24時間表示の切り替えができます。
4. **[SET]**を押して、設定を終了する

■ 日付の表示スタイルを切り替える

画面に表示される日付の表示スタイルを3つの中から選ぶことができます。

1. **[MENU]**を押す
2. “設定”タブ→“表示スタイル”と選び、**[▶]**を押す
3. **[▲]****[▼]**で設定内容を選び、**[SET]**を押す

例) 2007年12月19日

年/月/日:07/12/19

日/月/年:19/12/07

月/日/年:12/19/07

参考

- 操作パネル上の日付の表示スタイルも、下記のように切り替えることができます(38ページ)。

“年/月/日”、“月/日/年”を選んだ場合: 月/日の順

“日/月/年”を選んだ場合 : 日/月の順

ワールドタイムを表示する

購入時に設定した自宅の日時とは別に、海外旅行などで訪問する都市の日時を1都市選んで表示することができます。世界162都市(32タイムゾーン)に対応しています。

ワールドタイムを設定する

1. **[MENU]**を押す
2. “設定”タブ→“ワールドタイム”と選び、**[▶]**を押す
3. **[▲]****[▼]**で“訪問先”を選び、**[▶]**を押す
4. **[▲]****[▼]**で“都市”を選び、**[▶]**を押す

- サマータイムを設定するときは、**[▲]****[▼]**で“サマータイム”を選び、“入”に設定します。
- サマータイムとは、夏の一定期間、日照時間を有効に使うため、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。
- サマータイムの採用時期は国や地域によって異なります(日本では採用されていません)。



5. 【▲】【▼】【◀】【▶】で訪問先の地域を選び、【SET】を押す

6. 【▲】【▼】で訪問先の都市を選び、【SET】を押す

7. 【SET】を押して、設定を終了する

■ ワールドタイムとホームタイムの表示を切り替える

1. 【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“ワールドタイム”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“訪問先”を選ぶ

自宅 : ホームタイムの日時を表示します。

訪問先 : ワールドタイムの日時を表示します。

4. 【SET】を押して、設定を終了する

表示言語を切り替える

画面のメッセージの言語を変更することができます。

1. 【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“Language”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

■ 画面が外国語表示になってしまったとき



① 右側のタブを選ぶ

② 「Language」の項目を選ぶ

③ 「日本語」を選ぶ

USB通信の方法を切り替える

パソコンやプリンターなどの外部機器と接続するときの、USB通信の方法を切り替えることができます。接続する機器に合わせて切り替えてください。

1. **[MENU]**を押す
2. “設定”タブ→“USB”と選び、**[▶]**を押す
3. **[▲][▼]**で使用する機器に合わせて設定を選び、**[SET]**を押す
 - Mass Storage(USB DIRECT-PRINT):
パソコンやUSB DIRECT-PRINT対応(148ページ)のプリンターを接続する場合に選びます。パソコンにカメラを外部記憶装置として認識させる方法です。通常、パソコンへの画像の保存の操作時(付属のソフト「Photo Loader with HOT ALBUM」使用時)はこちらを選んでください。
 - PTP(PictBridge):
PictBridge対応(148ページ)のプリンターを接続する場合に選びます。画像データを外部接続機器に簡単に転送するための接続方法です。

[📷](撮影) / **[▶]**(再生)の動作を設定する

[📷](撮影)や**[▶]**(再生)を押しても電源が入らないようにしたり、**[📷]**(撮影)や**[▶]**(再生)を押して電源を切ることができるように設定することができます。

1. **[MENU]**を押す
2. “設定”タブ→“REC/PLAY”と選び、**[▶]**を押す
3. **[▲][▼]**で設定内容を選び、**[SET]**を押す
 - パワーオン : **[📷]**(撮影)や**[▶]**(再生)を押すと、電源が入ります。
 - パワーオン/オフ : **[📷]**(撮影)や**[▶]**(再生)を押して、電源を入れたり切ったりできます。
 - 切 : **[📷]**(撮影)や**[▶]**(再生)を押しても、電源は入りません。

参考

- “パワーオン/オフ”に設定しているときは、撮影モードで**[📷]**(撮影)を押した場合と再生モードで**[▶]**(再生)を押した場合に電源が切れます。
- お買い上げいただいたときは、“パワーオン”に設定されています。
- テレビに画像を映し出す場合は、“切”以外に設定する必要があります。

内蔵メモリーをフォーマットする

内蔵メモリーをフォーマットすると、内蔵メモリーの内容がすべて消去されます。

重要



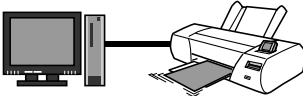
- 内蔵メモリーをフォーマットすると、データを元に戻すことはできません。フォーマット操作を行う際は、本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
- 次の画像も同時に消去されます。
 - 顔認識でファミリー登録した内容
 - メモリープロテクトされた画像
 - お気に入りフォルダの画像
 - ベストショットモードでカスタム登録した内容
 - 起動画面に設定した画像
- フォーマット操作を行うときは、十分に充電された電池を使用してください。フォーマット中に電源が切れると、正しくフォーマットされず、カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。
- フォーマット中は、絶対に電池カバーを開けないでください。カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。

1. 本機にメモリーカードが入っていないことを確認する
 - メモリーカードが入っている場合は、取り出してください。
2. **【MENU】**を押す
3. “設定”タブ→“フォーマット”と選び、**【▶】**を押す
4. **【▲】****【▼】**で“フォーマット”を選び、**【SET】**を押す
内蔵メモリーがフォーマットされます。
 - フォーマットを実行しないときは、“キャンセル”を選んでください。
 - フォーマットが完了すると、再生モードの場合は“ファイルがありません”と表示されます。

プリント(印刷)する

プリントのしかたあれこれ

撮影した画像は、3通りの方法でプリントできます。

お店で プリントする (148ページ)		<p>撮影に使ったメモリーカードを、プリントサービスのお店に持参してプリントします。</p> <ul style="list-style-type: none">● プリントしたい画像や枚数、日付の情報を設定しておくことができます。
自宅で プリントする	プリンターでプリントする(148ページ) 	PictBridge または USB DIRECT-PRINT に対応しているプリンターや、メモリーカードを差し込む スロット が付いているプリンターでプリントします。
	パソコンを使ってプリントする 	■Windowsパソコンの場合 付属のソフト (Photo Loader with HOT ALBUM) をパソコンにインストールした後、プリントします。 →「 Windowsパソコンを利用する 」(155ページ) ■Macintoshの場合 画像をパソコンに取り込んだ後、市販のプリントソフトを使ってプリントします。 →「 Macintoshを利用する 」(171ページ)

■ プリントについてのご注意

- 印刷品位や用紙の設定についてはプリンターの取扱説明書をご覧ください。
- PictBridgeやUSB DIRECT-PRINT対応プリンターの機種名やプリンターのバージョンアップなどについては、プリンターメーカーにお問い合わせください。
- プリント中は、ケーブルを抜いたり、カメラやUSBクレードルの操作を行わないでください。プリンターがエラーを起すことがあります。

お店でプリントする

プリントしたい画像が記録されているメモリーカードを、プリントサービスを行っているカメラ店などに持参してプリントします。DPOF機能(151ページ)を使って、プリントしたい画像や枚数、日付プリントの設定をあらかじめしておく、お店での手続きが簡単です。

お手持ちのプリンターでプリントする

お手持ちのプリンターが以下のどちらかのタイプの場合、パソコンを使わずにプリントできます。

- ご使用のメモリーカードに対応したメモリーカードスロット付のプリンター
- PictBridgeまたはUSB DIRECT-PRINTに対応しているプリンター

■ メモリーカードスロット付のプリンターでプリントする

メモリーカードをカメラから取り出し、プリンターのスロットに直接セットしてプリントできます。また、プリンターによってはカメラのDPOF機能(151ページ)で設定した内容(画像の指定、枚数、日付)が利用可能です。詳しくは、プリンターに付属の説明書にしたがって操作してください。

■ PictBridgeまたはUSB DIRECT-PRINT対応のプリンターでプリントする

カメラをプリンターに直接接続し、カメラの液晶モニター上でプリントする画像を選んでプリントできます。

- このカメラは付属のUSBクレードルを介してプリンターと接続しますが、すぐにUSBクレードルとプリンターを接続せずに、必ず以下の手順を進めてください。

1. **【MENU】**を押す
2. “設定”タブ→“USB”と選び、**【▶】**を押す
3. **【▲】****【▼】**で使用するプリンターに合わせて設定を選び、**【SET】**を押す

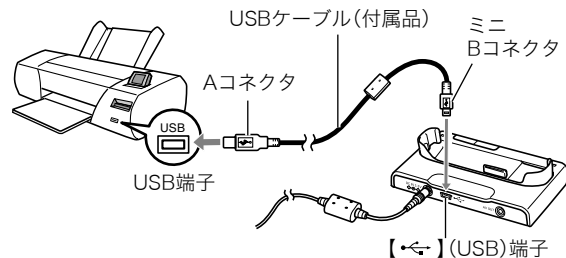
Mass Storage (USB DIRECT-PRINT) :

ご使用のプリンターがUSB DIRECT-PRINT対応の場合、こちらを選びます。

PTP (PictBridge) :

ご使用のプリンターがPictBridge対応の場合、こちらを選びます。

4. 付属のUSBケーブルでUSBクレードルとプリンターのUSB端子を接続する



- USBクレードルにはACアダプターも接続しておいてください。
- ACアダプターを使用しないときは、十分に充電された電池をセットしてください。
- 付属のAVケーブルがUSBクレードルに接続されていると、カメラの液晶モニターには何も表示されませんので、AVケーブルは必ずUSBクレードルからはずしてください。

5. カメラの電源を切り、カメラをUSBクレードルにセットする

6. プリンターの電源を入れる

7. プリンターに印刷用紙をセットする

8. USBクレードルの【USB】を押す

カメラにプリントメニュー画面が表示されます。



9. 【▲】【▼】で“用紙サイズ”を選び、【▶】を押す

10. 【▲】【▼】でプリントする用紙サイズを選び、【SET】を押す

- 用紙サイズは次の通りです。
“L判”、“2L判”、“はがき”、“A4”、“Letter”、“プリンタで設定”
- “プリンタで設定”を選ぶと、プリンター側で設定した用紙サイズでプリントされます。
- 用紙について設定できる内容は、接続したプリンターによって異なります。詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。

11. 【▲】【▼】でプリントの方法を指定する

1枚プリント : 1枚ずつプリントする場合に選び、【SET】を押します。続けて【◀】【▶】でプリントしたい画像を選びます。

DPOFプリント : 複数の画像やすべての画像をプリントする場合に選び、【SET】を押します。DPOF機能で設定した画像がプリントされます。設定方法については151ページをご覧ください。

- 日付設定の入/切を切り替えるには、【BS】を押します。“あり”を表示させると、日付がプリントされません。



12. 【▲】【▼】で“プリント”を選び、【SET】を押す

プリントが始まり、液晶モニターに“処理中ですしばらくお待ちください”と表示されます。しばらくすると表示が消えますが、プリントは終了していません。カメラのいずれかのボタンを押すと、プリントの状況が再び表示されます。プリントが終了すると、プリントメニュー画面に戻ります。

- “1枚プリント”で別の画像をプリントする場合は、手順11から同様の操作を行ってください。

13. プrintが終了したらUSBクレードルの【USB】を押す
カメラの電源が切れます。

プリントする画像や枚数を指定しておく (DPOF)

DPOF (Digital Print Order Format) とは、撮影した画像の中からプリントしたい画像や枚数などを設定し、その情報をメモリーカードなどの記録媒体に記録するための規格です。DPOF対応の家庭用プリンターやプリントサービス店でプリントすることができます。本機のDPOF機能を使えば、画像のファイル名などを意識することなく、液晶モニターで確認しながら設定ができます。

設定可能な内容は、画像／枚数／日付です。



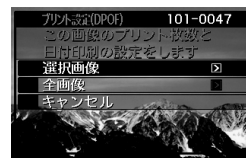
重要

- プリンターによっては、日付の設定が無効になったり、DPOFに対応していない場合があります。プリンターの取扱説明書にしたがって操作してください。
- お店でプリントをする場合、DPOF機能を利用できない場合や他の方法でプリントを受け付けている場合があります。その際は、店頭のサービスにしたがってプリントをご依頼ください。

■ 画像ごとにプリント枚数を指定する

1. 再生モードにして【MENU】を押す

2. “再生機能” タブ→“プリント設定 (DPOF)” と選び、【▶】を押す



3. 【▲】【▼】で“選択画像”を選び、【▶】を押す

4. 【◀】【▶】でプリントしたい画像を表示させる

5. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める

- プリント設定できる枚数は99枚までです。プリントしたくない場合は“00”にしてください。

6. 日付をプリントしたい場合は、【BS】を押して日付印刷を“あり”にする

- 日付が不要なときは、【BS】を押して日付印刷を“なし”にします。
- 他の画像をプリントする場合は、手順4~6を繰り返してください。

7. 【SET】を押す

■ すべての画像に同じプリント指定をする

1. 再生モードにして【MENU】を押す
2. “再生機能”タブ→“プリント設定(DPOF)”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“全画像”を選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める
 - プリント設定できる枚数は99枚までです。プリントしたくない場合は“00”にしてください。
5. 日付をプリントしたい場合は、【BS】を押して日付印刷を“あり”にする
 - 日付が不要なときは、【BS】を押して日付印刷を“なし”にします。
6. 【SET】を押す

次回のプリント時に気をつけていただきたいこと

プリントが完了してもDPOFの設定は自動的に解除されません。次回プリント時にも前回設定した画像がある場合、同じ画像がプリントされてしまいます。以前プリントした画像をプリントしない場合は、一度「すべての画像に同じプリント指定をする」(152ページ)の操作で、全画像プリントの枚数設定を“00”にしてから、あらためてプリント枚数を設定してください。

お店でプリントするときに気をつけていただきたいこと

お店にプリントを注文する場合は、注文時に「DPOFでプリントする画像、枚数、日付を設定済みです」とお伝えください。お伝えいただかないと、設定された内容(画像、枚数、日付)が反映されず、すべての画像がプリントされたり、日付がプリントされないことがあります。

日付プリントについて

以下の方法で、画像に撮影時の日付を入れてプリントすることができます。

- **本機のDPOF機能で指定する(151ページ)**
 - 本機のタイムスタンプ機能により、日付や時刻を写し込んだ画像にDPOFで日付印刷を設定すると、日付が2重に印刷されてしまいますので、DPOFによる日付印刷は設定しないでください。
 - プリンターによっては、日付の設定が無効になったり、DPOF機能に対応していない場合があります。プリンターの取扱説明書にしたがって操作してください。
 - プリントをするお店によってはDPOF機能に対応していない場合がありますので、あらかじめご確認ください。
- **本機のタイムスタンプ機能により日付や時刻を画像に直接写し込む(100ページ)**
- **付属のソフト「Photo Loader with HOT ALBUM」(164ページ)で日付を入れてプリントする(Windowsパソコンの場合)**
- **お店にプリントを注文するときに、日付プリントするよう依頼する**
 - プリントするお店によっては、日付をプリントできない場合がありますので、あらかじめご確認ください。

対応規格について

本製品は下記の規格に対応しています。

■ PictBridge/USB DIRECT-PRINT

- PictBridge:
カメラ映像機器工業会(CIPA)制定の規格です。
- USB DIRECT-PRINT
セイコーエプソン株式会社提唱の企画です。



■ PRINT Image Matching III

PRINT Image Matching III 対応プリンターでの出力および対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。

PRINT Image Matching及びPRINT Image Matching IIIに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。



■ Exif Print

Exif Print(Exif2.2)は、対応プリンターをお使いの場合に画像ファイルに記録された撮影情報を印刷出力に反映させることを可能にします。

Exif Print対応プリンターの機種名やプリンターのバージョンアップ等については、各プリンターメーカーにお問い合わせください。

